

○<ハローオリピズム事業>JOC オリンピック教室

- ・日時：2020年（令和2年）2月14日（金）午前10時40分から午後0時30分
- ・場所：常陸大宮市立山方中学校（常陸大宮市山方3267番地）
- ・主催：公益財団法人日本オリンピック委員会
- ・後援：スポーツ庁
- ・協力：公益財団法人JKA，常陸大宮市，常陸大宮市教育委員会
- ・講師：蛭沢 大輔 氏（バイアスロン・2006年トリノ大会10kmスプリント出場）
- ・内容

市立山方中学校で、2006年トリノ五輪にバイアスロン（10kmスプリント）で出場した蛭沢大輔^{えびさわ だいすけ}さんを講師として、運動と座学の2時間の授業を行いました。運動の授業では、全員で準備運動やレクリエーション要素を含んだウォーミングアップをした後、「オリンピックバリュー（“Excellence（卓越）”“Friendship（友情）”“Respect（尊敬）”）」を意識した8の字縄跳びを行いました。より良い結果を出すために工夫することなどをチームで積極的に話し合い、協力して取り組みました。運動の授業の終わりには、蛭沢先生と生徒全員で大縄跳びにチャレンジし、みんなで声を掛け合い跳ぶことに成功しました。

また、座学の授業では、蛭沢先生がバイアスロンの紹介や、自身がオリンピックに出場した際の体験をもとに、「努力は裏切らない（Excellence）」「昨日の敵は今日の友（Friendship）」「家族への感謝（Respect）」などとオリンピックバリューについて生徒たちに改めて伝えました。その後、「プレッシャーを克服するには何ができるか考えてみよう！」と題したグループワークを行いました。生徒からは、「これまでの努力を信じる」「仲間と励まし合う」などの意見が出ました。

本事業を通して、生徒たちは、オリピズムについて知るだけでなく、オリピズムが日常生活にも活かすことができるということを学ぶことができたようです。

🏊🏊 JOC オリンピック教室とは・・・？ 🏊🏊

オリンピック（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験談を通して「オリピズム」や「オリンピックの価値」などを伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことのできるものであることを授業を通して学習してもらうものです。

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。JOCが中学校3学年の体育理論の学習に先駆け、その内容を事前啓発する目的で中学校2学年を対象に、平成23年度から「ハローオリピズム事業」の一つとして、本事業を実施しています。



講師の 蛭沢 大輔 先生



準備運動



8の字縄跳び



全員で大縄跳び



座学の授業



生徒にアドバイスする蛭沢先生



代表者による発表



全員で記念撮影